名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

News Letter ニュースレター

2025.11 vol.131

瑞穂公園陸上競技場及びその周辺（令和7年10月撮影）

特集◉ 第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）・第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）まであと1年

メイン会場「名古屋市瑞穂公園陸上競技場」完成間近

調査研究

令和6年度研究成果報告

まちづくり支援

講座「まちづくり団体のための“伝わる・広がる広報術”」

まちづくり来ぶらり

東山スカイタワー

第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）・第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）まであと1年

メイン会場「名古屋市瑞穂公園陸上競技場」完成間近

名古屋市瑞穂公園陸上競技場の外観イメージ。「雲」のような白い膜屋根、「森」のような木格子、「大地」のような段丘状のデッキ。自然や公園と一体となった外観デザインで、地域の新たなシンボルを目指します。

安全で快適なランニング・ウォーキングコースとなる約1kmの8の字ループ

3階コンコースイメージ

鳥瞰イメージ

©株式会社瑞穂LOOP-PFI　※画像はイメージ

32年ぶりの日本開催 アジア最大の国際スポーツの祭典

日本スポーツ界にとって東京2020オリンピック・パラリンピックの次なる大きな目標となってきた「第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）」が、来年2026年9月19日（土）～10月4日（日）の16日間、愛知・名古屋を中心に開催されます。

アジア競技大会は、1951年に始まり4年に1度開催されるアジア最大のスポーツの祭典で、日本での開催は1994年の広島大会以来32年ぶり3度目となります。今大会ではアジア45の国と地域、最大15,000人が参加する予定で、実施競技はパリオリンピックを越える41競技にのぼります。世界トップレベルのスポーツをここ愛知・名古屋で、“生”で観戦できると同時に、人種、民族、文化を越えてアジアの様々な国の人々と交流ができる機会としても期待が高まります。

日本で初開催 第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）

アジアパラ競技大会は、1975年に始まった「極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会（フェスピック競技大会）」を引き継ぎ、2010年に中国・広州で初開催された、アジア地域の障害者総合スポーツ大会です。2026年10月18日（日）～10月24日（土）の7日間、愛知・名古屋で「第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）」が、日本初開催されます。アジア45の国と地域、3,600人～4,000人が参加予定、18競技が実施されます。

今大会を通じて、愛知・名古屋が、日本、さらにはアジアの障害者スポーツをリードすることにより、障害への理解促進や、障害のある方の社会参加の促進に大きな役割を果たし、ひいては、多様性を尊重し合う共生社会の実現に貢献することが期待されます。

第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）　大会エンブレム/大会スローガン/大会マスコット

20th Asian Games
Aichi-Nagoya 2026
名古屋市

IMAGINE ONE ASIA
ここで、ひとつに。

ホノホン
HONOHON

レガシーの継承 新たなシンボルとなるメイン会場

第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）・第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）のメイン会場となる名古屋市瑞穂公園陸上競技場

第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）　大会エンブレム/大会スローガン/大会マスコット

5th Asian Para Games
Aichi-Nagoya 2026
名古屋市

IMAGINE ONE HEART
こころを、ひとつに。

ウズミン
UZUMIN

は、総面積約24ha、自然と文化に触れることのできる運動公園「瑞穂公園」の中にあります。名古屋グランパスの試合などで市民に親しまれてきたこの陸上競技場は、1941年完成という長い歴史を持つ反面、施設の老朽化、機能不足などが指摘されており、第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）・第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）のメイン会場となるのをきっかけに、大会終了後の利活用・公園全体の価値の再編集も見据えて、建て替えが決まりました。

建て替えには民間資金を活用したPFI事業（BTO方式）が採用され、施設完成後には名古屋市に所有権を移転するとともに民間事業者が維持管理・運営を行います。2023年4月に着工し、2026年3月の完成に向けて、現在工事が進んでいます。

新しい瑞穂公園のコンセプトは「LifeSports-Our Own Park～スポーツをもっと自由に、楽しく、みんなのものに～」です。このコンセプトに沿って新設される機能の1つに「8の字ループ」があります。陸上競技場のコンコースとレクリエーション広場外周デッキで8の字の回遊路を形成し公園各所の魅力的な場を繋ぎます。スポーツイベント開催時には、各方面からのスムーズな観客動線となり、イベントが開催されていないときは、公園と同様に誰でも利用できる全長約1kmの安全で快適なランニング・ウォーキングコースとなります。このような仕組みで、公園に潜在する価値をつなぎ、「観る」「競う」から「遊ぶ」「リフレッシュ」する空間として、大会開催後も、市民に活用されることを目指します。

アジアとともに輝く未来へ
大会後のビジョン

名古屋市では、大会を一過性のスポーツイベントに終わらせることなく、大会の開催効果を都市の発展をはじめとする様々な分野につなげていくことが重要であるとし、大会開催を契機として目指すまちの姿を「2026アジア・アジアパラ競技大会NAGOYAビジョン」※において示しています。

そこでは、「夢や希望をはぐくみ、誰もが自分らしく生きる」「アジアとともに歩み、更なる飛躍を遂げる」というコンセプトのもと、次の4つのまちの姿を目指すとしています。①スポーツを通じた地域活性化、アクティブライフの推進、②スポーツを新たな都市ブランドのひとつとし、スポーツを活かした都市の魅力の創出と発信、③大会を契機とした国際交流の推進、④大会で活用した都市基盤や技術を引き継ぐ持続可能な都市の実現。

一年後に開催される第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）・第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）とともに、名古屋市の取り組みがまちづくり全体へとポジティブな影響を与えてくれることが期待されます。

※「2026アジア・アジアパラ競技大会NAGOYAビジョン」について詳しくは、名古屋市WEBサイトよりご覧いただけます。右記の二次元コードよりアクセスください。

名古屋都市センター機関誌「アーバン・アドバンス」9月号では、「スタジアム・アリーナとまちづくり」特集を展開。まちづくりと第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）・第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）の関連性も紹介されています。

愛知県全域が競技会場に！

メイン会場である名古屋市瑞穂公園陸上競技場をはじめとして、愛知国際アリーナや豊田スタジアムなど、第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）では53の競技会場で、第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）では19の競技会場で白熱した戦いが繰り広げられます。

実施競技や会場の詳細は、大会公式ホームページでご覧いただけます。右記二次元コードよりアクセスください。

第20回アジア競技大会
（2026/愛知・名古屋）
実施競技及び競技会場

第5回アジアパラ競技大会
（2026/愛知・名古屋）
実施競技及び競技会場

令和６年度研究成果報告会を開催しました

名古屋都市センターでは、名古屋のまちづくりや都市計画行政の課題を先取りし、その解決の糸口を提示するため、学識者や行政機関等とともに、幅広い観点からの調査研究を実施し、その内容は、毎年の成果報告会や当センターHP等で公表しています。

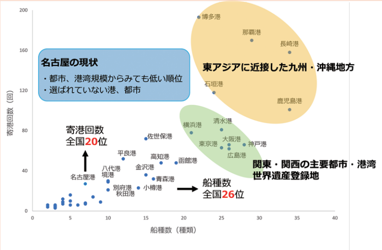
令和６年度には、以下５件の調査研究を行いました。

令和６年度研究成果報告会の様子▶

研究1 名古屋における外航クルーズ客船誘致のあり方に関する研究

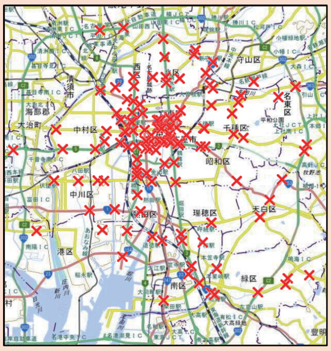
国内における外航クルーズ客船の寄港状況やクルーズターミナルの整備状況等に関する基礎データを整理し、名古屋の現状とその立ち位置を把握するとともに、主要港における下船後の乗客の行動分析や関係機関へのヒアリング調査を通じて、名古屋が外航クルーズ客船の誘致・受け入れをどのように進めていくべきかについて提案を行いました。

外航クルーズ客船の寄港実態（令和6年）▶



研究2 自転車事故発生状況からみる道路構造改善に向けた研究

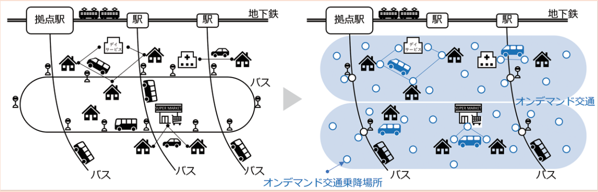
名古屋市内における自転車事故多発交差点を抽出し、自転車事故の発生状況と交差点の特徴から、自転車事故の発生に影響を及ぼす交差点の構造要素を推定しました。



自転車事故多発地点（H31～R5）▶

研究3 人口減少・超高齢社会におけるまちづくりに関する研究 ～名古屋市の交通環境に着目して～

今後、増加が見込まれる移動に困難を抱える高齢者について、その日常的な移動実態をアンケート調査より分析し、高齢者の移動実態に沿った交通環境の提案を行いました。

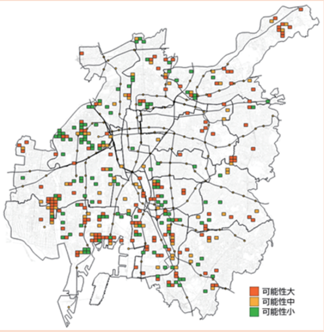


▲オンデマンド交通の導入イメージ

研究4 人口減少・超高齢社会におけるまちづくりに関する研究 ～名古屋市の居住に着目して～

名古屋市内における空き家の発生分布に着目して、現状の都市のスポンジ化の実態・要因を把握するとともに、今後、都市のスポンジ化が予測されるエリアを抽出し、その特徴を把握しました。

将来の都市のスポンジ化可能性図▶



研究5 大規模地震災害からの復興に関する研究

東日本大震災における復興を踏まえ、大規模地震災害発生後に名古屋において市街地復興計画を検討する際に必要となる復興の方法について整理を行いました。

名古屋都市センターのホームページでは、令和6年度調査研究の研究報告書とYouTube動画を公開しております。ぜひご覧ください。

＼令和7年度　まちづくりスキルアップ講座／

Instagram&プレスリリース活用法を学ぶ「まちづくり団体のための“伝わる・広がる広報術”」

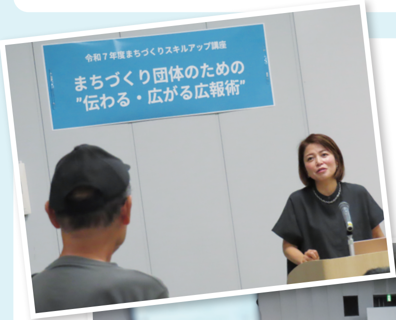
まちづくり活動に取り組まれる方々からよく耳にする「広報」のお悩み。特にSNS（Instagram）は多くの方が活用していますが、実は「どう発信したら伝えたい人に届くのだろう?」と悩みながら使っている方も少なくありません。

また、「イベントの参加者を増やすために手を打っているけど何か足りない…」と感じたことはありませんか?そんなときに役立つのがプレスリリースです。「ハードルが高そう」と思われがちですが、実はちょっとしたコツをつかめば誰でも作れるもの。

令和7年度まちづくりスキルアップ講座は、広報の役割や考え方、Instagram・プレスリリースの活用法を実践的に学ぶことをテーマに、7月26日（土）、8月31日（日）の2回に渡って開催しました。

第1回 7月26日（土） Instagramの効果的な活用について

第1回では、まずPRの役割を体系的に説明。その後、Instagramのアカウント設計のポイント、情報を届けたい相手の設定方法、ストーリーズやリールの効果的な発信方法など具体的な手法を解説。さらに、実際に講師の犬飼氏が会場で撮影した動画を用いたリール作成の実演もありました。



第2回 8月31日（日） 取り上げてもらえるプレスリリースを作りましょう!

第2回では、報道関係者に取り上げられるプレスリリースの作り方と活用方法にフォーカス。プレスリリースでイベント集客数を増やした実例紹介の後は、プレスリリースの方法や構成、書き方をポイントごとに説明しました。最後はタイトルを考えるワークを行い、発表者には犬飼氏から直接アドバイスもありました。

講師　“伝説の広報”　犬飼 奈津子氏

講師の犬飼奈津子氏は、元ジェイアール名古屋タカシマヤの広報として、15年間、国内最大級のバレンタイン催事「アムール・デュ・ショコラ」など数々の企画を担当し、TV取材件数は年間約500件を記録。2023年6月に（株）Wo-oneを独立起業し、現在は企業の広報内製化・広報担当者育成の伴走支援を中心に活躍中です。

「私は特別優秀だったわけじゃないんです。とにかく諦めず、皆を巻き込んでやったんです」と語る犬飼氏の熱意が会場に広がった本講座。終了後には、さっそく複数の団体から「Instagramの運用を見直しました！」「プレスリリース始めました！」の声が届いています。

詳細レポートはこちら!

まちづくり来らいぶらり

第98号

まちづくりライブラリー

全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。

東山スカイタワー

名古屋市千種区の東山動植物園北園に併設された東山スカイタワーは、昨年開業35周年を迎えました。1989年（平成元年）に名古屋市制100周年を記念して建てられ、工事費は約28億円、7月11日に開館し、初年度の入館客数は約62,000人でした。

高さは地上134メートル（タワーは80メートルの丘の上にあるため、標高では214メートルとなります）。展望室は4階（地上96メートル・標高176メートル）と5階（地上100メートル・標高180メートル）にあり、晴れた日には遠くに御嶽山や鈴鹿山脈の山並みを眺めることができます。

タワーは展望を楽しむだけではなく、防災行政無線の中継基地としての役割を担っていることをご存知でしょうか。タワーの76～86メートルの位置には14基のパラボラアンテナが設置され、名古屋市役所からの防災行政無線を各区役所や消防署へ中継します。南北のアンテナ用デッキには高感度カメラが設置され、市防災司令センターで市内の映像を確認できます。

また4階展望室の中心に制震装置が設置されており、その実物をガラス越しに見ることができます。装置は、やじろべえのように1点で床に固定された約20トンのおもりを揺らすことによって、建物の揺れのエネルギーを吸収し、揺れ幅を6～7割程度に抑えています。これにより展望室・スカイレストランでは快適に過ごすことができます。

名古屋の優れた都市景観を表彰する「名古屋市都市景観賞」を1991年（平成3年）に受賞している東山スカイタワー。東山動植物園の四季折々の展望を楽しんでみませんか。

現在

昭和戦前

さらに詳しく知りたい方は、こちら

◆参考文献◆

『市制百周年記念事業活動記録 名古屋市』（2B04-91）

『東山総合公園事務局事業概要 平成11年版』（2B08-99）

『東山動植物園とともに歩んだ60年』（2B19-2009）

『名古屋まちなみデザインセレクション 選集』（2B18-2023）

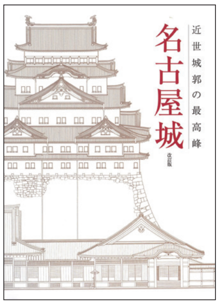
※（）内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

図書紹介

『近世城郭の最高峰名古屋城　改訂版』

企画・編集：名古屋城総合事務所ほか
出版社：名古屋城PRイベント実行委員会
請求記号：Sc-ナ

関ヶ原の戦いの後、徳川家康は大坂城の豊臣方との一戦を強く意識し、廃城となっていた那古野城の場所に新しい名古屋城を築城しました。石垣・天守・櫓・御殿・庭園・城下町などを専門家が解説する一冊。明治時代以降の名古屋城の数奇な運命にも触れています。



『スポーツとまちづくりのイノベーション』

著者：小島大輔ほか
出版社：創文企画
請求記号：Cg-コ

スポーツとまちづくりは一見関わりがないように思えますが、近年スタジアムやアリーナを核とした市街地再開発の事例が増加しています。新たな発想や技術を導入し、住民の交流や健康増進、スポーツイベントや音楽興行による地域活性化について考察します。

『図書館ウォーカー2 旅のついでに図書館へ』

著者：オラシオ
出版社：日外アソシエーツ
請求記号：Pa-オ

元・図書館員の著者による全国の図書館をめぐる旅エッセイのシリーズ第2弾。いわゆる「図書館ガイド」とは異なり、図書館の写真より周辺の風景写真の方が多く、その土地の日常の雰囲気が感じられます。一緒に旅をしている感覚を味わえる一冊です。

1 令和7年度まちづくりセミナー

第1回 「にぎわいの質を問う 久屋大通南エリアへの提案」を開催します

登壇者：岩瀬 諒子氏（岩瀬諒子設計事務所）　ほか
場　所：名古屋都市センター　11階ホール
日　時：2025年12月14日（日）15時30分～18時
主　催：公益財団法人 名古屋まちづくり公社
共　催：建築系愛知16大学共同企画展実行委員会

第2回 「ライトライン誕生までの軌跡」を開催します

講演者：宇都宮市建設部　部長　矢野 公久氏
場　所：名古屋都市センター　11階ホール
日　時：2026年1月8日（木）　14時30分～16時30分
主　催：公益財団法人名古屋まちづくり公社
　　　　名古屋都市センター

2 令和7年度歴史まちづくり講演会

第2回、第3回を開催します。

第2回 名古屋駅周辺のあゆみ ―昭和100年を振り返って―

日　時：2025年11月29日（土）14時～（予定）
講　師：杉山 正大氏（名古屋都市センターアドバイザー）

第3回 尾張造（神社建築）の特徴（仮）

日　時：2026年1月11日（日）14時～（予定）
講　師：米澤 貴紀氏（名城大学准教授）

場　所：名古屋都市センター　11階ホール
主　催：公益財団法人　名古屋まちづくり公社
　　　　名古屋都市センター

3 【まちづくり支援】広報ご紹介！

支援班では、名古屋のまちづくりを応援するために、市内各地域のまちづくり活動団体によって取り組まれている活動やその魅力を発信しています。

その媒体の一つである広報紙「地まちのチカラ」を、この度、内容をさらにパワーアップしリニューアル。名古屋都市センターの職員が活動の場へ足を運び、見て聴いて、体験した内容を写真やインタビュー記事で紹介するなど名古屋のまちづくりの「今」をお届けします。

さらに、支援メニューである、助成制度、講座や交流会の案内、報告なども掲載。

名古屋都市センターや市内各所に配架の他、名古屋都市センターホームページよりご覧ください。

※紙面デザインはイメージです。

4 令和7年度まちづくりびと講座　受講者募集！

「TOWN／MONEY／WAY-MAKING TALK SESSION」

まちづくり活動のためのお金づくり、活動をつづける仕組みづくりを、まちづくり団体を立ち上げたりこれから始める人たちとQUESTIONを持ち寄り、考え、話す会。開催します。

まちづくりを続けていくには、想いだけでなく、活動を支えるお金と仕組みが欠かせません。この講座では、まちが続いていくための工夫や、その活動が自立する方法を考えます。

第1回 いい場所は好きだけど、どう続ける？を一緒に考える

日　時：2025年11月29日（土） 10時～12時
場　所：名古屋都市センター 14階 第1･2会議室

第2回 まちでの活動を長持ちさせるお金のことを一緒に考える

日　時：2025年12月6日（土） 14時～16時
場　所：名古屋都市センター 11階ホール

第3回 続けるための仕事術と、まちへの還元を一緒に考える

日　時：2026年1月10日（土） 14時～16時
場　所：名古屋都市センター 11階ホール

講　師：Too Much 株式会社　代表取締役／
　　　　名古屋駅西　ホリエビル　オーナー／
　　　　名古屋駅太閤通口まちづくり協議会　所属
　　　　堀江 浩彰 氏

ゲスト：愛知学泉短期大学講師
　　　　博士（経営学）
　　　　古橋 敬一 氏

詳細及び申し込みはWEBサイトよりご確認ください。

名古屋市内の文化財等をご紹介します。

歴史を巡る まちを巡る

歴まちくんとおとも

洋館の玄関

階段

部屋

門

旧春田鉄次郎邸【景観重要建造物】東区主税町三丁目6-2
陶磁器のまちを象徴する、和と洋が出会う名邸

明治から大正にかけて、陶磁器の絵付業で賑わった東区主税町周辺は、名古屋の近代化を物語る歴史的建造物や文化財が数多く残されている地域です。

春田鉄次郎（1868-1933）は陶磁器の輸出で成功を収め1924年に建てた邸宅が、今に残る「旧春田鉄次郎邸」です。設計を手がけたのは関西近代建築の父･武田五一（1872-1938）と伝えられています。

和館と洋館がつながる和洋折衷の造りは、文化住宅と呼ばれる当時の流行。洋館には車夫が待機する待合所が備えられており、細部にまでこだわりが光ります。天井や床のデザイン、重厚な暖炉など、邸宅の随所に大正ロマンの香りが漂います。

現在は飲食店（Restaurant Dubonnet）として利用しながら、館内の一部を無料公開。春田家ゆかりの品や昭和の生活道具が展示されており、歴史と暮らしを身近に感じられます。

モダンと和の融合が息づく邸宅で、時を超えたひとときをお楽しみください。

●お知らせ

旧春田鉄次郎邸は前号掲載の名古屋市演劇練習館とともに、本年7月文化審議会から登録有形文化財とするよう文部科学相に答申されました。

●アクセス

基幹バス「清水口」停、徒歩約6分

●見学方法

見学を希望される方は、隣接する旧豊田佐助邸の係員にお声をお掛けください。（※飲食店部分は見学できません）

休館日

月曜日（祝日の場合はその翌平日）、年末年始（12月29日から1月3日まで）

開館時間

午前10時から午後3時30分まで

飲食店　Restaurant Dubonnet（レストラン デュボネ）
https://www.dubonnet.jp/

《参考文献》
愛知県の近代化遺産　愛知県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書, 愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室編集, 愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室,2005.3

公益財団法人 名古屋まちづくり公社
名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

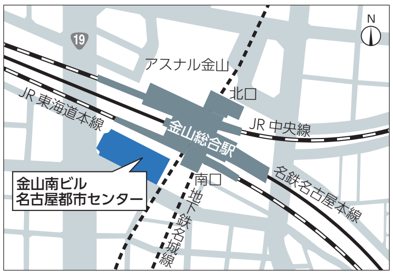
〒460-0023
名古屋市中区金山町一丁目1番1号　金山南ビル
TEL 052-678-2208
FAX 052-678-2209
https://www.nup.or.jp/nui/

ISSN:1341-6820

利用案内◉どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場
（展示スペース・ホール・喫茶コーナー）

【12階】まちづくりライブラリー
火～金曜日：10:00～18:00
土・日曜日・祝休日：10:00～17:00
※休館日：月曜日（祝休日の場合はその翌日）、年末年始
まちづくりライブラリーは、上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館



SNSやってます！

この印刷物は再生紙を使用しています。